

上川 E02 の結果概要

地区名：KC5 上川

2067 林班ろ小班

9 月 19 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林(トドマツ優占)		斜面中部	南西	1	2	直近 5.1	累積 3.5	足跡
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	71 /200 m ²	39.7 m ² /ha	28 /200 m ²	食痕: 17/28	61%	27 /200 m ²	10/40	25%(0%)
	46 /200 m ²	45.3 m ² /ha	18 /200 m ²	食痕: 1/18	6%	13 /200 m ²	6/24	25%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	18 /200 m ²	10/18	56%		39	24%・92.9・13%	0.40・0.11(4.3)・0.02	
	1 /200 m ²	0/1	0%		49	16%・117・0%	0.37・0.13(5.1)・0.03	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
トドマツ	19	3,938	4	7
エゾマツ	2	1,543		
オヒョウ	2	1,223		1
ナナカマド	4	576	2	3
ヤチダモ	2	419		
全体	46	8,782	18	15

※総BAは胸高直径断面積の総和。

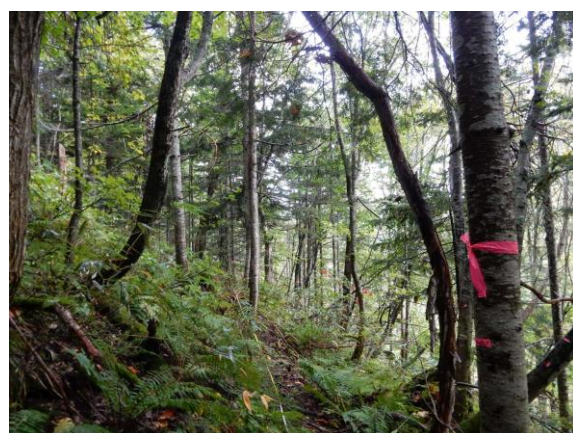
稚樹調査結果－主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
トドマツ	1	
オニグルミ	1	
全体	2	

林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
チシマザサ	13	0.220	16	117.0	0
シラネウラボ	7	0.036	7	42.6	0
オンダ	9	0.035	6	48.7	0
ジュウモンジシダ	7	0.027	6	36.7	0
オクノカンスゲ	11	0.017	6	23.8	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、中越地区の林道沿いの針広混交林に設定されている。トドマツが優占し、エゾマツや広葉樹のオヒョウ、ナナカマドが混生する。2009 年調査時には林内にシカの足跡が確認され、食痕もやや多かった。広葉樹で下枝がある立木 28 本のうち 61%に食痕が見られ、樹皮剥ぎは全立木の 25%に見られた。今回は下枝の食痕率が大きく減少し、食痕が少なくなった印象を受ける一方で(樹皮剥ぎ率は 25%で変化なし)、下枝本数、稚樹本数、ササ被度がいずれも目立って減少していた。前回、稚樹はナナカマドなど 18 本が生育していたが、今回広葉樹はオニグルミ 1 本のみだった。ササ被度(チシマザサが優占)は 24%から 16%になった(ただし、ササの食痕は確認されなかった)。可食種の現存量は 0.02 から 0.03 とわずかに変化したが、忌避種がその 4 倍以上を占める。全体にエゾシカの影響は中程度である。

上川 E03 の結果概要

地区名：KC5 上川

2118 林班に小班

9 月 19 日調査実施

林相		地形		方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡		
針広混交林		緩斜面		西	1	2	直近 3.3	累積 3.3	糞・シカ道		
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率				小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)			
	40 /200 m ²	51.9 m ² /h	22 /200 m ² 食痕: 9/22 41%				12 /200 m ²	0/27 0%(0%)			
	36 /200 m ²	55.1 m ² /h	20 /200 m ² 食痕: 2/20 10%				11 /200 m ²	3/23 13%(0%)			
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率			林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]		
	18 /200 m ²	6/18 33%				42	26% ・114.5・ 0%		0.73 ・0.14 (0.5)・ 0.28		
	11 /200 m ²	2/11 18%				48	26% ・101・ 0%		0.45 ・0.15 (5.85)・ 0.02		

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の () 内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
シナノキ	10	5,160	5	
トドマツ	3	2,399		
ウダイカンバ	1	1,403		
ナナカマド	3	940	1	1
ダケカンバ	2	671		
全体	36	11,023	20	5

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果－主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
オヒョウ	6	2
ベニイタヤ	1	
ナナカマド	1	1
シナノキ	2	
シウリザクラ	1	1
全体	11	4

林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
チシマザサ	14	0.275	26	100.7	0
シラネワラビ	18	0.121	19	46.3	0
オクノカンスゲ	9	0.009	4	17.3	0
オシダ	2	0.008	2	37.5	0
コヨウラクツツジ	5	0.008	1	76.6	2

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、茅刈別地区（南部・高標高）の林道沿いの針広混交林に設定されている。針葉樹で多いのはトドマツで、広葉樹ではシナノキが多く見られる。2009 年調査時から林内にはシカ道があり、下枝食痕率 41% など食痕もやや目立っていたが、今回は 10% に減少していた。その一方で、樹皮剥ぎは 0% から 13% に増加した。前回、稚樹はハウチワカエデなどを中心に 18 本が生育していたが、今回はオヒョウなど 11 本となっていた。稚樹の食痕率は 33% から 18% に減少していた。林床はチシマザサが優占しているが、空隙が多い。シラネワラビなども比較的多く生育する点など、前回からそれほど変化していなかったが、低木類が減少している（前回、低木類の多くにシカの食痕が見られた）。可食種の現存量は前回 0.28 と大きかったが、0.02 まで減少していた。食痕率は低下が見られるが、稚樹本数や低木類の被度の減少は、エゾシカの影響が蓄積しつつあることを示す。

上川 E04 の結果概要

地区名：KC5 上川

180 林班に小班 9 月 19 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度(SPUUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
河畔林		堆積地	なし	1	2	直近 5.8	累積 4.5	なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	45 /200 m ²	59.8 m ² /ha	20 /200 m ² 食痕:1/20 5%			5/200 m ²	7/40 18%(8%)	
	33 /200 m ²	53.4 m ² /ha	12 /200 m ² 食痕:2/12 17%			1/200 m ²	2/28 7%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	0 /200 m ²	0/0			19	99%・158.8・ 30%	1.61・0.02 (0.7)・0.03	
	1 /200 m ²	1/1 100%			17	98%・170・ 20%	1.70・0.00 (0.22)・0.02	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
ヤチダモ	14	5,300	2	
ハルニレ	2	3,684	1	4
ハシドイ	12	984	9	8
トドマツ	5	713		3
全体	33	10,681	12	15

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果－主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
ヤチダモ	1	1
全体	1	1

林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	1.672	98	169.9	4
ヨブスマソウ	4	0.008	1	129.0	0
トクサ	9	0.004	1	45.7	0
ヤチダモ	2	0.003	0	123.5	1
ホウウチャクソウ	5	0.002	1	27.8	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、清川地区南部の林道沿いの河畔林に設定されている。広葉樹のヤチダモ、ハルニレが優占する。林内にシカ道はないが、前回調査時からハルニレやハシドイに樹皮剥ぎが目立ち、高利用域になっていると推測された。今回、樹皮剥ぎ率は減少していたが、前回樹皮剥ぎを受けていたハルニレの多くが枯死していた。下枝本数は 20 本から 12 本に減少する一方、食痕率は 5%から 17%に増加していた。稚樹はヤチダモ 1 本のみだが、主にササによる被陰のせいでシカによるものではない。林床はクマイザサが優占し、平均被度は 98%、平均高も 170cm 近くに達し、ササ以外の植物はきわめてわずかとなっている（前回とほとんど変化なし）。ササには、若干の食痕が認められるのみである。可食種、忌避種とも現存量は小さい。エゾシカの影響は越冬期（ササが倒伏している残雪期か）に集中し、ハルニレなどに強く現れている。

上川 E05 の結果概要 地区名：KC6大雪東 220 林班よ小班 9 月 19 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		堆積地	南	1	2	直近 4.3	累積 6.5	冬糞・越冬地
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	66 /200 m ²	67.5 m ² /ha	37 /200 m ² 食痕:16／37 43%			12/200 m ²	13／62 21%(3%)	
	59 /200 m ²	69.0 m ² /ha	24 /200 m ² 食痕:3／24 13%			7/200 m ²	11／55 20%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	1 /200 m ²	1／1 100%			57	4%・40.2・17%	0.12・0.09 (6.3)・0.01	
	0 /200 m ²	0／0			57	0.8%・40.2・75%	0.16・0.01 (0.06)・0.15	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の () 内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
ケヤマハンノキ	5	2,542	3	1
ミヤマザクラ	7	1,981	1	
ミズナラ	10	1,776	5	3
イタヤカエデ	20	1,402	8	5
ドロノキ	1	1,318		
全体	59	13,696	24	15

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果－主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
-----	-----------	-------------

稚樹なし

林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
コバノイラクサ	15	0.055	16	31.1	1
エゾイラクサ	8	0.030	4	52.5	1
エトリカブト	11	0.016	3	36.3	0
エゾカラマツ	6	0.015	2	56.3	0
ゴンゲンスゲ	9	0.008	6	12.3	7

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、層雲峡野営場付近の広葉樹二次林に設定されている。広葉樹のケヤマハンノキ、イタヤカエデなどが多く見られる。前回調査時から林内にはシカ道が多く、下枝食痕率 43%、樹皮剥ぎ率 21%など、食痕も目立っていた。また、ササ（チシマザサ）が顕著に衰退し、シカの越冬地として利用されていることを示していた。今回、樹皮剥ぎ率は 20%とほとんど変化がなかったが、下枝食痕率は 13%に低下した一方で、ササ食痕率は 17%から 75%に増加した。下枝本数は 37 本から 24 本、小径木 12 本から 7 本、広葉樹の稚樹は 1 本から 0 本、ササの被度は 4%から 0.8%にそれぞれ減少した。累積的な被食圧の影響を強く受けていることを示しており、今後の更新への影響が懸念される。林床はササが完全に衰退した代わりに、エゾトリカブトやコバノイラクサなどの忌避種がまばらに生える。林床植生にもエゾシカの影響が強く見られるが、可食種の現存量（指数）は 0.01 から 0.15 に増加しているなど、最近では夏季の利用度が減少している可能性もある。

上川 E06 の結果概要

地区名：KC6 大雪東

2320 林班ふ小班

9 月 18 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		斜面中部	南東	1	2	直近 1.0	累積 2.5	足跡
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	69 /200 m ²	70.9 m ² /ha	31 /200 m ²	食痕: 8/31	26%	12/200 m ²	2/61	3%(0%)
	28 /200 m ²	37.6 m ² /ha	18 /200 m ²	食痕: 8/18	22%	4/200 m ²	4/47	9%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	0 /200 m ²	0/0			10	89%・108.8・5%	1.15・0.06 (0.6)・0.10	
	0 /200 m ²	0/0			8	90%・119.8・0%	1.28・0 (0)・0.20	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
オヒョウ	32	4,688	22	6
ドロノキ	5	3,733		
シラカバ	3	2,873		
オノエヤナギ	7	2,041	7	
ダケカンバ	1	820		
全体	55	15,036	36	8

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果－主な樹種

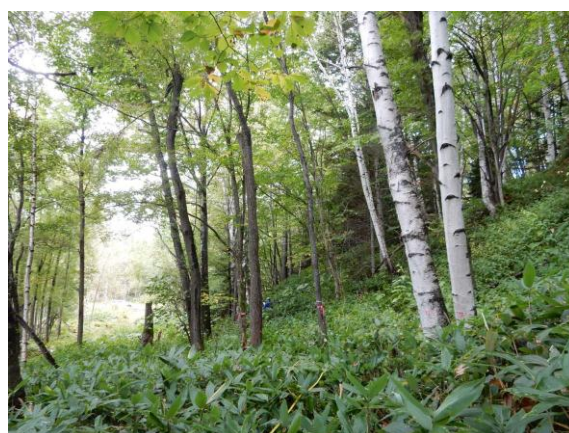
種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
-----	-----------	-------------

稚樹なし

林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	1.082	90	119.8	0
アキタブキ	9	0.134	11	110.8	0
エゾイラクサ	15	0.059	6	90.2	0
サラシナショウマ	4	0.002	1	31.8	0
ヨブスマソウ	1	0.001	0	143.0	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、石狩川流域の銀泉台地区の林道沿いの広葉樹二次林に設定されている。湿った環境を反映してオヒョウの小～中径木が多く見られ、林床は著しくクマイザサが繁茂する。前回・今回とも、林道沿いにはシカの足跡が見られ、食痕もみられる。前回調査時には、嗜好性の高いオヒョウにも食痕は見られるが、樹皮剥ぎなどはそれほど顕著ではなかった。下枝食痕率は 26% から 22%、ササ食痕率は 5% から 0% とそれぞれ微減したのに対し、樹皮剥ぎ率は 3% から 9% に微増した。その一方で、下枝本数は 31 本から 18 本、小径木は 12 本から 4 本に減少しているが、被圧による影響も考えられる。稚樹は前回・今回ともまったく確認されなかった。これはササの被圧とシカによる被食の影響のためと考えられる。林床はクマイザサ以外では、ところどころにアキタブキやエゾイラクサなどの高茎草本が生育している。可食種の現存量は 0.10 から 0.20 に増加した。全体にエゾシカの影響は中程度で、前回から大きな変化はなかった。

上川 E07 の結果概要

地区名：KC6 大雪東

2309 林班よ小班

9 月 19 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
河畔林		堆積地	なし	2	2	直近 1.0	累積 2.7	糞・足跡・シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	42 /200 m ²	58.2 m ² /ha	5 /200 m ² 食痕:4/10 40%			1/200 m ²	7/52 13%(2%)	
	39 /200 m ²	66.6 m ² /ha	10 /200 m ² 食痕:2/10 10%			1/200 m ²	8/51 16%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]
	0 /200 m ²	0/0			28	14%・95.5・0%		0.34・0.17(5.5)・0.03
	0 /200 m ²	0/0			34	11.5%・103.3・0%		0.32・0.08(0.63)・0.12

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の () 内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
オヒョウ	50	15,290	6	9
ダケカンバ	13	3,473	3	
トドマツ	4	3,274	4	2
オノエヤナギ	1	2,343		
エゾマツ	8	1,840	6	1
全体	77	26,621	20	12

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果－主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
-----	-----------	-------------

稚樹なし

林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	4	0.124	12	103.3	0
オクノカンスゲ	17	0.069	29	23.7	0
エゾイラクサ	19	0.035	6	54.3	0
エゾヒョウタンボク	4	0.028	2	96.0	1
ヨブスマソウ	11	0.026	4	63.0	3

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、沼の原地区（高標高）の林道沿いの河畔林に設定されている（50m×4m 区が 2 セット）。林相としては針広混交林ないし落葉広葉樹林となっている。針葉樹ではトドマツとエゾマツが出現し、広葉樹ではオヒョウが多く見られる。前回調査時から林内にはシカ道が多く、食痕も目立っていた。下枝食痕率は 40% から 10% に低下した一方で、樹皮剥ぎ率は 13% から 16% に微増した（オヒョウに多く見られる）。ササの食痕は、前回・今回とも 0% だった。広葉樹の稚樹は、前回・今回とも 0 本で、エゾシカの累積的な被食圧の影響と思われる。林床はクマイザサがパッチ状に優占する場所もあるが、ヨブスマソウなどの高茎草本が群生する場所ではササを欠いている。ササの平均被度に大きな変化は認められなかった。可食種の現存量は 0.03 から 0.12 に増加した一方で、忌避種は 0.17 から 0.08 に減少した。プロット付近では前回・今回とも、ヨブスマソウに食痕が多く見られ、全体にエゾシカの影響が強く見られる。

上川 WO1 の結果概要

地区名: KC1 美瑛

1021 林班り小班

9 月 18 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
河畔林		堆積地	なし	1	2	直近 3.5	累積 1.5	なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	60 /200 m ²	34.0 m ² /ha	24 /200 m ²	食痕: 3/24	13%	14/200 m ²	0/60	0%(0%)
	49 /200 m ²	35.7 m ² /ha	34 /200 m ²	食痕: 5/34	15%	12/200 m ²	4/49	8%(4.1%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	8 /200 m ²	1/8	13%		30	80%・145.0・15%	1.24・0.05 (4.3)・0.01	
	4 /200 m ²	2/4	50%		27	46%・112.5・5%	0.67・0.08 (2.75)・0.03	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
ハルニレ	14	3,832	12	1
ハリギリ	5	843	1	
オニグルミ	1	712		
パッコヤナギ	2	370		1
ヤマグワ	8	346	6	1
全体	49	7,131	34	5

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果－主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
トドマツ	1	
シナノキ	1	1
ニガキ	1	
ミズキ	1	
ヤマグワ	1	1
全体	5	2

林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.572	46	112.5	1
フッキソウ	15	0.024	10	21.9	0
ミヤマベニシダ	9	0.020	4	36.0	0
ジュウモンジシダ	7	0.014	3	45.6	0
ヨブスマソウ	7	0.009	2	43.7	2

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、美瑛地区南部の林道沿いの河畔林（落葉広葉樹二次林）に設定されている。ハルニレが本数、材積ともに優占する。下枝食痕率は 13% から 15%、樹皮剥ぎ率は 0% から 8%、稚樹食痕率は 13% から 50% とそれぞれ増加している（ササ食痕率は 15% から 5% に低下）。過去（累積）に比べて直近の SPUE が増加していることと整合的である。広葉樹の稚樹は 8 本から 4 本に減少したが、下枝本数は 24 本から 34 本に増加している。林床にはクマイザサが優占し、食痕はわずかに見られるのみである。なお、ササの平均被度が 80% から 46% に大きく減少したが、一部で一斉開花枯死が起きたため、シカによる影響ではない。可食種の現存量は 0.01 から 0.03 に変化したが、量的には小さく、忌避種のほうが多いが、もともとフッキソウが多い立地だったと思われる。

上川 W02 の結果概要 地区名：KC1 美瑛 216 林班か小班 9 月 17 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		緩斜面	南東	1	2	直近 3.6	累積 2.3	糞・シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	137 /200 m ²	34.3 m ² /ha	72 /200 m ²	食痕: 1/72	1%	88 /200 m ²	1/117	1%(0%)
	119 /200 m ²	35.0 m ² /ha	66 /200 m ²	食痕: 3/66	5%	77 /200 m ²	1/106	1%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	50 /200 m ²	0/50	0%		29	19%・108.3・17%	0.72・0.03 (0.1)・0.48	
	39 /200 m ²	4/39	10%		30	25.8%・106.1・0%	0.62・0.01 (0.04)・0.30	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の () 内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
トドマツ	6	1,887	3	
ミズナラ	16	1,337	15	1
ウダイカンバ	8	1,318		
ベニイタヤ	29	654	9	
ハウチワカエデ	43	637	27	
全体	121	6,997	66	2

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果－主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
ハウチワカエデ	21	1
ベニイタヤ	4	1
ナナカマド	3	1
キタコブシ	3	
トドマツ	2	
全体	43	4

林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	11	0.310	26	106.1	0
ハウチワカエデ	12	0.117	10	78.5	2
オオカメノキ	12	0.043	8	51.9	7
アカミノイヌツゲ	6	0.023	4	31.7	0
シナノキ	1	0.020	2	115.0	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、神居ダム地区の林道沿いの二次的な針広混交林に設定されている。針葉樹ではトドマツ、広葉樹ではウダイカンバ、ミズナラ、ハウチワカエデなどが見られる。前回調査時から林内にはシカ道があったが、食痕は少なかった。下枝食痕率は 1% から 5% に微増したが、樹皮剥ぎ率は前回・今回とも 1%、ササ食痕率は 17% から 0% に減少した。稚樹食痕率は 0% から 10% に増加した。小径木は 88 本から 77 本、広葉樹の稚樹は 50 本から 39 本にそれぞれ減少したが、依然として多かった。林床にはクマイザサが優占するが、パッチ状で、低木類も多く見られる。ササの被度は微増した。可食種の現存量は 0.48 から 0.30 と減少したが、依然として大きく、忌避種は少ない。全体にエゾシカの影響は軽微である。

上川 WO3 の結果概要

地区名：KC1 美瑛

227 林班お小班 9 月 17 日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林	斜面中部	西	1	2	直近 3.6	累積 2.3	糞・シカ道・姿
毎木調査－主な樹種							
種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)	径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
トドマツ	9	5,009	1	1	24/200 m ²	8/54	15%(0%)
オオバボダイジュ	19	4,042	9	4	12/200 m ²	5/36	14%(0%)
ハリギリ	1	555	7	29	46%	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
ベニイタヤ	11	211	7	29	46%	0.56・0.05 (1.9)・0.03	
ホオノキ	2	108	1	29	42.7%	0.53・0.06 (2.04)・0.03	
全体	45	10,018	20	7			

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。
※総BAは胸高直径断面積の総和。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
トドマツ	9	5,009	1	1
オオバボダイジュ	19	4,042	9	4
ハリギリ	1	555	7	29
ベニイタヤ	11	211	7	29
ホオノキ	2	108	1	29
全体	45	10,018	20	7

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果－主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
ベニイタヤ	1	1
ナナカマド	1	1
キタコブシ	1	
オオバボダイジュ	1	1
ヤマグワ	1	
全体	5	3

林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.445	43	100.4	0
オクノカンスゲ	15	0.024	7	27.4	0
ツタウルシ	14	0.012	4	24.3	0
ミヤマイボタ	14	0.010	3	32.8	7
フッキソウ	13	0.009	5	17.5	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、西神楽地区の林道沿いの針広混交林二次林に設定されている。針葉樹ではトドマツ、広葉樹ではオオバボダイジュ、ベニイタヤなどが見られる。前回調査時から林内にはシカ道があり、食痕もやや目立っていた。下枝食痕率と樹皮剥ぎ率は前回と今回でほとんど差がなかったが、稚樹食痕率は 46% から 60% に増加し、ササ食痕率は 10% から 0% に減少した。小径木は 24 本から 12 本に半減し、稚樹本数は 100 本から 5 本に大幅に減少した。林床にはクマイザサが優占するが、密生まではしておらず、前回と今回で被度にほとんど変化がなかった。可食種、忌避種とも現存量指数は小さく、同程度だった。全体にエゾシカの影響は中程度で、大きな変化はない。

上川 W05 の結果概要

地区名：KC2 大雪西

1031 林班は小班

9 月 18 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		斜面中部	北東	1	2	直近 2.8	累積 2.4	なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	73 /200 m ²	44.0 m ² /ha	46 /200 m ² 食痕:1/46 2%			39 /200 m ²	2/56 4%(0%)	
	66 /200 m ²	49.8 m ² /ha	46 /200 m ² 食痕:3/46 7%			36 /200 m ²	3/51 6%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]
	9 /200 m ²	0/9 0%			44	70%・104.0・0%		1.00・0.05 (0.3)・0.17
	11 /200 m ²	6/11 54%			50	57%・105.6・0%		0.82・0.03 (0.21)・0.16

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
シナノキ	11	3,363	2	
ウダイカンバ	6	2,254		
ケヤマハンノキ	5	1,296	4	
ミズナラ	2	1,142	1	
ナナカマド	2	634	1	
全体	68	9,961	46	3

※総BAは胸高直径断面積の総和。

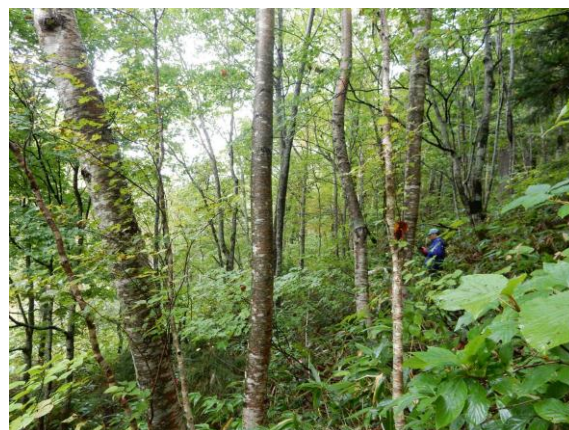
稚樹調査結果－主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
オガラバナ	8	3
エゾマツ	6	
トドマツ	5	
オヒョウ	2	2
イチイ	1	1
全体	22	6

林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.622	57	105.6	0
オオカメノキ	8	0.056	4	99.5	6
ノリウツギ	4	0.051	4	87.5	0
オヒョウ	3	0.011	1	65.7	1
シラネワラビ	7	0.010	2	25.6	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、朗根内地区の林道沿いの針広混交林に設定されている。針葉樹ではエゾマツとトドマツ、広葉樹ではシナノキ、ウダイカンバなどが見られる。下枝がある立木は前回・今回とも 46 本と比較的多いが、食痕率は 10%以下だった。樹皮剥ぎも 10%以下だった。広葉樹とイチイを合わせた稚樹本数は 11 本で、本数は前回と大きく変化していないが、食痕率が 0%から 54%に増加した。林床に優占するクマイザサの平均被度がやや低下したが、エゾシカの影響は特に見られなかった。それ以外では低木類が見られ、オオカメノキでは食痕が観察された。可食種の現存量は 0.17、忌避種の現存量指数は 0.17 から 0.16 とほとんど変化しなかった。全体にエゾシカの影響は軽微なままだった。

上川 WO6 の結果概要

地区名：KC2 大雪西

355 林班る小班

9 月 18 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		緩斜面	北	2	4	直近 3.2	累積 2.7	糞・足跡・シカ道・姿
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	24 /200 m ²	56.6 m ² /ha	9 /200 m ² 食痕:1/17 6%			4/200 m ²	1/39 3%(0%)	
	22 /200 m ²	56.4 m ² /ha	8 /200 m ² 食痕:2/15 13%			2/200 m ²	1/36 3%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	3 /200 m ²	1/6 17%			18	73%・126.6・0%	1.07・0.03 (0.3)・0.11	
	0 /200 m ²	0/0			25	64.5%・118.2・0%	0.93・0.03 (0.33)・0.09	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の () 内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査—主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
ヤチダモ	6	7,278	3	
エゾマツ	6	3,835	3	
オヒョウ	2	2,862		1
シウリザクラ	9	2,705		
ホオノキ	3	1,823		
全体	44	22,141	15	1

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

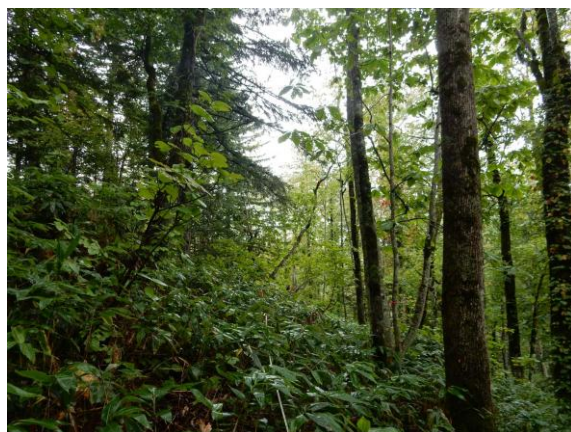
稚樹調査結果—主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
トドマツ	1	
全体	1	

林床植生調査結果—主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.804	65	118.2	0
オオカメノキ	12	0.079	8	72.0	6
ツルアジサイ	9	0.010	3	12.9	0
ツルニンジン	2	0.009	1	121.0	0
ジュウモンジシダ	5	0.008	2	35.6	0

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、忠別ダム地区の林道沿いの針広混交林に設定されている。付近は標準林に指定されており、林分は周辺域に比べて発達しているが、立木の本数密度はそれほど高くない。針葉樹ではエゾマツとトドマツ、広葉樹ではヤチダモやシウリザクラなどが見られる。前回調査時から、林分構造に大きな変化はなかった。前回調査時から林内にはシカ道があり、シカの食痕もみられた。下枝食痕率は 6%から 13%に増加したが、樹皮剥ぎ率、ササ食痕率はともに低く、変化しなかった。小径木と稚樹は前回から少なかったが、さらに減少した。可食種の現存量は 0.11 から 0.09 に微減、忌避種は 0.03 で変化しなかった。全体にエゾシカの影響は軽微のままである。

上川 WO7 の結果概要 地区名：KC3 旭川 267 林班は小班 9 月 17 日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)	斜面中部	西	1	2	直近 5.8	累積 2.7	足跡・声
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	103 /200 m ²	38.2 m ² /ha	51 /200 m ²	食痕:23/51 45%	57 /200 m ²	2/97 2%(0%)	
	86 /200 m ²	40.2 m ² /ha	48 /200 m ²	食痕:4/48 8%	52 /200 m ²	1/88 1%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]
	86 /200 m ²	27/43 63%			20	56%・91.9・40%	0.60・0.01(0.1)・0.06
	100 /200 m ²	15/100 30%			58.1	58.1%・102.0・0%	0.65・0(0)・0.06

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
ミズナラ	18	5,362	4	
オオバボダイジュ	6	632	2	
ヤマナラシ	1	560		
アズキナシ	16	490	2	
ダケカンバ	2	426	2	
全体	93	8,035	48	1

※総BAは胸高直径断面面積の総和。

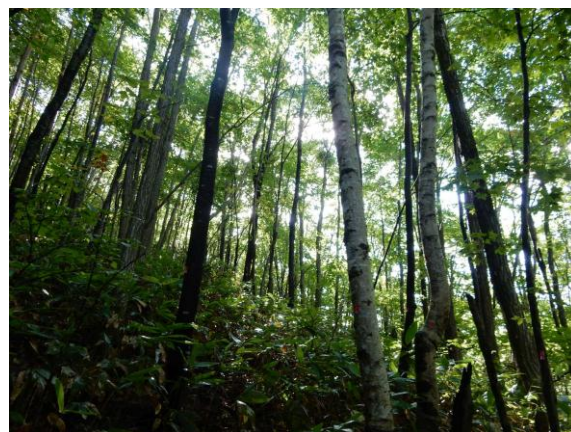
稚樹調査結果－主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
ハウチワカエデ	10	7
アズキナシ	2	2
シナノキ	4	3
ミズナラ	1	1
イタヤカエデ	3	1
全体	50	21

林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ² /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.597	58	102.0	0
オオバボダイジュ	4	0.017	1	86.3	1
ハウチワカエデ	5	0.011	1	70.0	2
ツノハシバミ	1	0.007	1	145.0	1
サワフタギ	1	0.004	1	88.0	1

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、石狩川沿い(旭川市神居古潭)にある教育林内の落葉広葉樹二次林に設定されている。ミズナラが優占している。林床はクマイザサが優占し、高木稚樹や低木類がわずかに混生する。前回調査時には林内にシカの足跡や食痕がみられ、今回調査時にもシカの鳴き声が聞かれている。前回、下枝食痕率、稚樹食痕率、ササ食痕率はやや高かったが、下枝食痕率は 45%から 8%、稚樹食痕率は 63%から 30%、ササ食痕率は 40%から 0%とそれぞれ大きく減少した。一方、樹皮剥ぎは 2%から 1%とほとんど変化しなかった。小径木本数、稚樹はともに、上川管内の他の調査区に比べて多く、前回から大きな変化はなかった。可食種、忌避種とも、現存量指数は小さく、前回からほとんど変化しなかった。直近の SPUE は 5.8 と高いが、エゾシカの影響は中程度のままといえる。

上川 WO8 の結果概要

地区名：KC3 旭川

289 林班に小班

9 月 17 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		斜面中部	北	1	2	直近 12.0	累積 3.5	糞
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	61 /200 m ²	56.9 m ² /ha	37 /200 m ² 食痕: 14/37 38%			28 /200 m ²	1/61 2%(0%)	
	50 /200 m ²	61.6 m ² /ha	28 /200 m ² 食痕: 1/28 4%			21 /200 m ²	2/53 4%(1.9%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]		
	122 /200 m ²	29/61 48%		56	20% ・85.6・ 35%	0.52 ・0.22 (1.8)・ 0.12		
	34 /200 m ²	10/34 59%		45	38.4% ・92.7・ 17%	0.73 ・0.16 (1.08)・ 0.15		

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の () 内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査—主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
ミズナラ	5	2,393	2	
シナノキ	11	2,339	8	
オヒョウ	5	2,133		
オオバボダイジュ	1	1,544		
イタヤカエデ	3	1,271	1	
全体	53	12,321	28	2

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果—主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
シウリザクラ	5	5
ハウチワカエデ	4	4
ベニイタヤ	2	2
シナノキ	2	1
ハクウンボク	2	2
全体	17	15

林床植生調査結果—主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	18	0.415	38	92.7	3
ハイイヌガヤ	12	0.085	8	88.4	0
ジュウモンジシダ	12	0.067	12	52.9	0
ミヤマベニシダ	9	0.065	10	61.2	1
オオカメノキ	12	0.029	4	65.2	9

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、神居古潭地区の落葉広葉樹二次林内に設定している。シナノキやミズナラなどが多く見られる。林床にはクマイザサが優占するが、低木類やシダなども多く生育する。前回・今回調査時とも林内にシカの糞がみられた。下枝食痕率は 38% から 4%、ササ食痕率は 35% から 17% とそれぞれ大きく減少したが、樹皮剥ぎ率は 2% から 4%、稚樹食痕率は 48% から 59% にそれぞれ増加した。下枝本数や小径木数は微減だが、稚樹本数は 122 本から 34 本に大きく減少した。ササの平均被度は 20% から 38.4% に増加したが、可食種、忌避種の現存量はそれぞれ大きく変化していない。嗜好性が高いオオカメノキには食痕が高頻度で見られるなど、全体にエゾシカの影響がやや強く見られる。直近の SPUE は 12.0 と急増しており、エゾシカの影響が蓄積されてくることが予想される。

上川 W09 の結果概要 地区名：KC3 旭川 139 林班い小班 9 月 16 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ミズナラ)		斜面中部	西	1	2	直近 6.1	累積 2.8	なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	54 /200 m ²	59.8 m ² /ha	28 /200 m ² 食痕:2/28 7%			25/200 m ²	2/54 4%(0%)	
	47 /200 m ²	62.3 m ² /ha	23 /200 m ² 食痕:3/23 13%			25/200 m ²	5/54 9%(5.6%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	18 /200 m ²	0/18 0%			20	58%・108.1・20%	0.68・0.02 (0.5)・0.04	
	32 /200 m ²	5/32 16%			19	55%・108.5・20%	0.63・0 (0.08)・0.02	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
ミズナラ	11	8,053	1	
カシワ	1	2,473		
アズキナシ	13	769	6	1
ベニイタヤ	16	358	7	1
イタヤカエデ	2	358	2	
全体	55	12,456	23	5

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果－主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
ベニイタヤ	10	7
アズキナシ	3	1
エゾヤマザクラ	1	1
オオバボダイジュ	1	1
ヤマナラシ	16	1
全体	32	11

林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.606	55	108.5	4
アキカラマツ	7	0.006	1	56.1	0
ヤマブドウ	5	0.005	1	36.2	0
ヤマウルシ	6	0.005	1	43.2	0
ベニイタヤ	6	0.003	1	41.2	3

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、嵐山地区南部の林道沿いの広葉樹林に設定されている。林冠木にはミズナラが多く、亜高木層や低木層にはアズキナシやベニイタヤがみられる。林床にはクマイザサが優占し、前回調査時にもシカの食痕が見られた。下枝食痕率は 7%から 13%、樹皮剥ぎ率は 4%から 9%、稚樹食痕率は 0%から 16%とそれぞれ増加していた。ササ食痕率は 20%で前回と同じだった。小径木数は 25 本で変わらず、稚樹は 18 本から 32 本と増加した。また、ササの平均被度は 58%から 55%とほとんど変化していなかった。可食種の現存量は 0.04 から 0.02、忌避種は 0.02 から 0 と大きな変化はなかった。全体にエゾシカの影響はそれほど顕著にはなっていないが、直近の SPUE は 6.1 と増加しており、エゾシカの影響が蓄積されてくることが予想される。

上川 W10 の結果概要

地区名：KC3 旭川 113 林班ち小班 9 月 16 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林(ダケカンバ)		緩斜面	西	1	2	直近 4.7	累積 2.0	糞
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	102 /200 m ²	46.2 m ² /ha	32 /200 m ²	食痕: 0/32	0%	31/200 m ²	3/63	5%(0%)
	86 /200 m ²	49.7 m ² /ha	36 /200 m ²	食痕: 3/36	8%	30/200 m ²	6/61	10%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	現存量 m ³ /m ² [全体・忌避種・可食種]	
	64 /200 m ²	6/32	19%		17	1%・71.8・20%	0.38・0.26 (2.5)・0.11	
	126 /200 m ²	8/126	13%		18	1.7%・99.8・20%	0.91・0.06 (0.08)・0.83	

※数値の上段は 2009 年調査結果。稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。林床現存量の忌避種の()内は忌避種/可食種の比率。

毎木調査－主な樹種

種 名	本数 (本)	総BA (cm ²)	下枝 あり(本)	樹皮 はぎ(本)
ダケカンバ	24	3,671		
トドマツ	6	1,939		
ナナカマド	14	1,502	1	1
ベニイタヤ	14	816	7	
エゾヤマザクラ	3	709		
全体	91	9,935	36	6

※総BAは胸高直径断面積の総和。

稚樹調査結果－主な樹種

種 名	本数 (本)	食痕 あり(本)
ベニイタヤ	20	6
ハウチワカエデ	15	1
シウリザクラ	6	3
トドマツ	5	
アズキナシ	5	1
全体	68	15

林床植生調査結果－主な植物

種 名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
ハイイヌガヤ	20	0.401	40	95.5	0
ツノハシバミ	8	0.228	13	179.4	0
オオカメノキ	13	0.101	14	56.7	3
ナナカマド	3	0.043	5	117.3	0
ツタウルシ	14	0.037	8	39.1	1

※現存量は被度と高さの積として算出。全体の被度は植被率の値。



本調査区は、旭川北部の林道沿いの針広混交林に設定されている。林冠にはダケカンバが優占し、亜高木層や低木層にはベニイタヤなどがみられる。林床にはハイイヌガヤ、オオカメノキなどの低木類が目立ち、ササはわずかしかないが、シカの影響によるものではない。前回調査時には林内にシカの糞が確認されている。下枝食痕率は 0% から 8%、樹皮剥ぎ率は 5% から 10% と増加した。一方、稚樹食痕率は 19% から 13% に低下し、ササ食痕率は 20% で変化がなかった。下枝本数や小径木数はあまり変化しなかったが、稚樹本数は約 4 倍に増加した。可食種の現存量は 0.11 から 0.83 に増加したのに対し、忌避種はそれを上回る 0.26 から 0.06 に減少した。全体にエゾシカの影響は軽微であるが、SPUE は増加傾向にあるので注意が必要である。